

■ いきいきと地域に参画できる社会づくり（松原中学校）

1 【活動の趣旨】

様々な地域課題について、体験的な学びを通して、それらの課題解決に向けて生徒が主体的に活動することと、地域社会の一員としての意識を高め、行動力を身に付けることをめざす。

2 【特徴的な活動内容】

○保育体験

総合的な学習（ESD）と家庭科の教科横断型の取組として、昨年度より松原中学校区内のこども園3園で保育実習を実施した。家庭科で学習した手遊びを園児と一緒に取り組んだり、春大根の栽培方法をタブレット紙芝居で園児に見せたりした。その後、園児と一緒に春大根の種を蒔く活動を行った。



【園児と種を蒔いている】

○農業体験

地域コーディネーターと連携し、草津市農林水産課の農商連携調整員の指導のもと、土壌改良、畝づくりや栽培などの農業に関わる体験活動を実施した。夏野菜や春大根を育て、収穫物については活用方法を考え、地域での販売などを行った。



【農業体験（大根の間引き）】

3 【実施に当たっての工夫】

保育体験では、家庭科の授業で実習を行うに当たっての心構えや注意すべきポイント、幼児との関わり方について事前学習に取り組んだ。また、農業体験では、総合的な学習の時間を通して、農産物を育てる意義や目的を考え、草津市の特産野菜である「ベジクサ」について調べ学習等に取り組んだ。

4 【事業の成果】

未就学児や地域の方々などさまざまな世代の方とのコミュニケーションを行う力を身につけることができた。また、生徒たちが中学校を卒業し、社会に出た時に必要となるコミュニケーション力が育成された。さらに、地域関係者やボランティアの方々とのふれあいにより、生徒たちにとって温かいつながりを持つことができた。

5 【事業の今後の展望】

生徒につけさせたい力を学校と地域で共有し、地域社会で人を育てる意識をもって継続的に取り組んでいきたい。また、地域と学校のニーズの重なりを検討し、地域課題解決型学習に向けた取組を、地域コーディネーターと共に進めていきたい。